

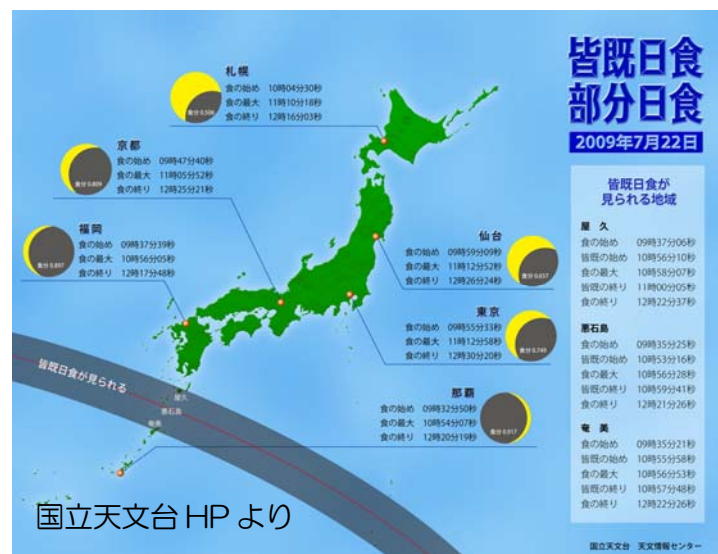
特 集 皆既日食

ガリレオ・ガリレイが手製の望遠鏡で月を観測してからちょうど 400 年目の今年は、「世界天文年 2009」です。この節目の年の 7 月 22 日（水）に日本全国で日食が見られます。特に、鹿児島県トカラ列島を中心とした地域では、実に 1963 年以来、日本で見られる 46 年ぶりの皆既日食となり、天文ファンだけでなく、多くの人を楽しみにしています。

日食とは、月が太陽と地球の間に入り、月によって太陽が隠される現象です。太陽全体が隠れるのを皆既日食、一部が欠けるのを部分日食といいます。また、月より太陽の方が少し大きく見えるのを金環食といいます。皆既日食では太陽のコロナ等が観察できます

今回の日食は、日本全国で部分日食を見ることができます。また、悪石島、屋久島などの皆既日食帯と呼ばれる地域の中では、皆既日食が見られます。部分日食は、一般的にこの皆既日食帯に近いほど、大きく欠けて見られ、日本では大ざっぱに南に行くほど大きく欠けて見られることになります。

東京では太陽の約 4 分の 3 まで月が入り込みます。



三好町では、午前9時50分7秒に太陽の右上から欠け始め、11時8分17秒で最大（太陽の直径の 80%まで月が入り込む）となり、午後12時27分17秒に終わります。観測に適しているのは10時30分から11時40分の間です。

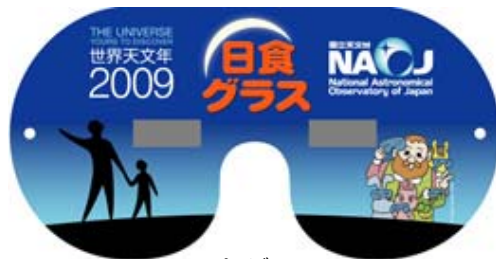
観測するためには、専用の日食グラス（1500 円前後、Amazon や東急ハンズで入手可能）や太陽観察専用フィルター（300～500 円前後）が便利です。また、ピンホール（紙に針などを用いてあけた小さな穴）を利用した観察、鏡を利用して壁などに反射して見る方法などが安全な方法としてあります。

一方で、観測に当たっては、目を痛めないように次のことはやってはいけません。

①直接太陽を見ない、②望遠鏡や双眼鏡で見ない、③下敷きや CD を使わない、④カメラのフィルムの端を使わない、⑤ススを付けたガラスを使わない、⑥サングラスやゴーグルを使わない、などです。

次回、日本で見られる中心食（金環日食・皆既日食）は、2012 年 5 月 21 日の金環日食です。九州地方の一部、四国地方の一部、近畿地方南部、中部地方南部、関東地方の大部分、東北地方南部で金環日食を観察することができます。その次は、2030 年 6 月 1 日に北海道中央部で見られる金環日食です。

また、皆既日食となると、この次に日本で見られるのは 2035 年 9 月 2 日です。中部地方の一部、関東地方の北部などで皆既日食を観察することができます。



日食グラス
（世界天文年 2009 日本委員会 HP より）